

## 論文審査の要旨(甲)

申請者領域・分野 氏名	総合医療・健康科学領域 社会医療総合医療教育研究分野 氏名 一井 定信
指導教授氏名	井原 一成
論文審査担当者	主 査 中村 和彦 副 査 三上 達也 副 査 富山 誠彦
<p>(論文題目) A longitudinal study of CogEvo's prediction of cognitive decline in older adults(高齢者の認知機能低下に関する CogEvo の予測に関する縦断的研究)</p>	
<p>(論文審査の要旨)</p> <p>近年、高齢者の認知機能を評価するためコンピューターベースのテストバッテリーの使用が増えている。中でも CogEvo (Total Brain Care、神戸、日本)は、専門家が不要であり、Mini- Mental State Examination (MMSE) に比べ Cognitive decline(CD)の評価に適している。本研究の目的は、CogEvo の高齢者の CD に対する予測能力とスクリーニング精度を縦断的研究により明らかにすることである。</p> <p>2017 年から 2019 年にかけて、青森県深浦町の 33 カ所の集会所で行われている高齢者向けコミュニティクラブの参加者からデータを収集した。研究対象者の組み入れ基準は、①2017 年に実施されたベースライン調査で MMSE スコア 24 点以上、②2018 年と 2019 年に実施された追跡調査に参加、③欠損データがない 65 歳以上とした。参加者の MMSE を、次いで CogEvo を評価した。今回の研究では、MMSE23 点以下を CD と定義した。CogEvo は 5 つの領域を評価するための標準的 5 タスクを用いた。最終的に 5 課題の総合判定が「特級」から「5 級」までの 6 段階での級数で表示される。級数が高いほど、認知機能が低いことを示す。</p> <p>適格性基準を満たした参加者 119 名が本研究の解析対象であった。CogEvo の 2 年間の追跡期間に CD を発症したのは 10 名であった。2 年間の累積 CD 発生の割合は、CogEvo3 級以下よりも 4 级以上で有意に高かった(<math>P &lt; 0.01</math>)。多変量ロジスティック回帰分析の結果、CogEvo4 級以上は、2 年間の CD 発生の独立した予測因子であった(<math>P &lt; 0.05</math>)。2 年間の CD 発生の有無をゴールドেনスタンダードとした場合、4 級をカットオフ値とした CogEvo の感度と特異度はそれぞれ 50.0%と 93.6%であった。</p> <p>CogEvo は、4 級をカットオフ値とした場合、2 年間の累積の CD 発生予測において、相対的に低感度、高特異度であった。したがって、コンピューターベースのテストバッテリーである CogEvo は将来 CD になる可能性のある個人を特定する上で効率的なツールであることを新たに示し、学位授与に値する。</p>	
公表雑誌等名	Healthcare 2024, 12(14), 1379; <a href="https://doi.org/10.3390/healthcare12141379">https://doi.org/10.3390/healthcare12141379</a>